



地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん 北信地区経済動向



「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけします。

月例調査レポート



長野市 赤沼
長野新幹線車両センター

夜明け前の新幹線車両基地。横一列に並び出番を待つE7系車両。
かつて高崎～軽井沢間はフル規格、軽井沢～長野間はミニ新幹線という構想もありました。五輪の開催決定に伴い、全区間フル規格での着工となり、「東京は長野だ!」のキャッチコピーのもと、平成9年10月1日長野新幹線は開通しました。
あれから22年、去りゆく平成時代の輝けるレガシーとして、今日も高速鉄道輸送の一日が始まります。

- 長野しんきん 月例調査レポート 2
- 企業アンケート 31年の経営見通し ③ 6
- インタビュー 変革期の経営ビジョン 8
- 北信濃 江戸時代の風景 (55) 屋代宿本陣 10



長野信用金庫

概況 全産業

生産は3カ月ぶりの上昇 前年同月比は29カ月ぶりの低下

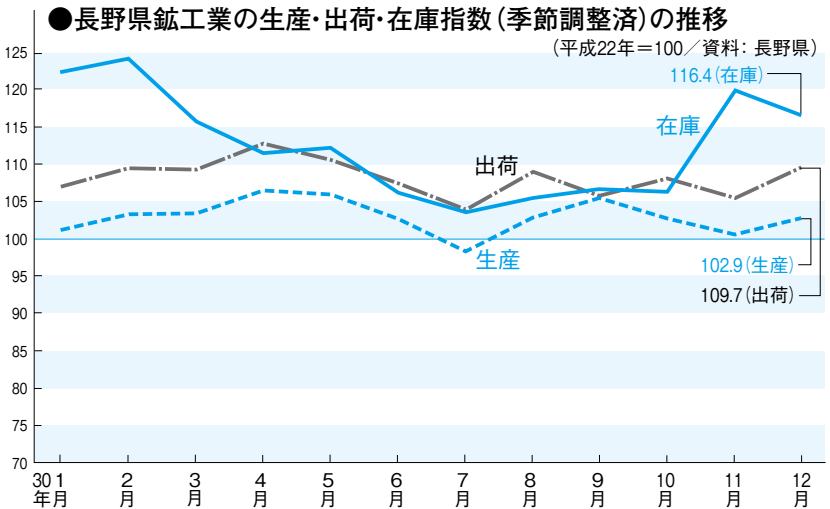
◇30年12月の長野県鉱工業指数

(速報：季節調整済指数)

生産は102.9(前月比+2.4%)で3カ月ぶりの上昇、出荷は109.7(同+4.1%)で2カ月ぶりの上昇、在庫は116.4(同▲2.9%)で2カ月ぶりの低下となりました。

◇前年同月比(原指数)

生産は100.1(前年同月比▲2.5%)で29カ月ぶりの低下、出荷は107.8(同▲0.1%)で3カ月ぶりの低下、在庫は115.9(同▲4.5%)で2カ月ぶりの低下となりました。



[生産] 上昇…電気機械、はん用・生産用・業務用機械、化学など10業種

低下…電子部品・デバイス、食料品、金属製品など7業種

[出荷] 上昇…はん用・生産用・業務用機械、食料品、情報通信機械など10業種

低下…金属製品、輸送機械、木材・木製品など6業種

[在庫] 上昇…情報通信機械、電気機械、窯業・土石製品など6業種

低下…はん用・生産用・業務用機械、食料品、その他など9業種

月例調査

全産業の「売上高」は横ばい

前回調査 平成31年1月

◇2月調査による[北信地区の経済状況]

全産業(不動産業・旅館業を除く)の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(30%)が

2割減少、「減少」割合(24%)が3割減少、「不変」割合(46%)が5割増加、全体としては横ばいの状況です。

●売上高(生産高・施工高)前年比「増加・不変・減少」割合

矢印は前回調査比(3ポイント以上の動き)

↑ 増加 → 不変 ↓ 減少
↗ 改善 ↖ 不変 ↘ 悪化

全産業 (不動産業・旅館業を除く)	前回			今回	割合	回収率
	増加	不変	減少	増加	不変	減少
前	31.3	41.3	27.4			201社(回収率82.7%) 30人未満 75.1% 30人以上 24.9%
今	29.5	46.2	24.3			210社(回収率86.4%) 30人未満 73.3% 30人以上 26.7%
製造業	32.9	41.1	26.0			73社(回収率85.9%) 30人未満 64.4% 30人以上 35.6%
建設業	36.5	44.5	19.0			63社(回収率88.7%) 30人未満 85.7% 30人以上 14.3%
卸小売業	14.6	52.1	33.3			48社(回収率84.2%) 30人未満 87.5% 30人以上 12.5%
サービス業	50.0	33.3	16.7			6社(回収率66.7%) 30人未満 66.7% 30人以上 33.3%
輸送業	22.2	44.5	33.3			9社(回収率90.0%) 30人未満 11.1% 30人以上 88.9%
外食業	27.3	72.7	0.0			11社(回収率100.0%) 30人未満 54.5% 30人以上 45.5%

製造業

食料品、金属加工品、一般機械、電気機械、自動車部品、精密機械

「生産高」食料品が増加するも、全体は減少

製造業の生産高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(33%)が8ポイント減少、「減少」割合(26%)が1ポイント減少、「不変」割合(41%)が9ポイント増加し、全体としては減少の状況です。

●生産高前年比「増加・減少」割合(%)

製造業	前回	41.2	32.3	26.5
	今回	増加 32.9	不変 41.1	減少 26.0
食料品		52.9	35.3	11.8
金属加工		28.6	50.0	21.4
一般機械		44.4	44.5	11.1
電気機械		16.7	66.6	16.7
自動車部品		0.0	33.3	66.7
精密機械		28.6	28.5	42.9

【業種別】 増加…食料品

横ばい…一般機械

減少…金属加工・電気機械・自動車部品・精密機械

【機械稼働】(前回比)稼働率 下降

上昇割合 (21%) → 10%

下降割合 (9%) → 23%

【受注状況】 受注量(前回比) 減少

増加割合 (24%) → 10%

減少割合 (21%) → 30%

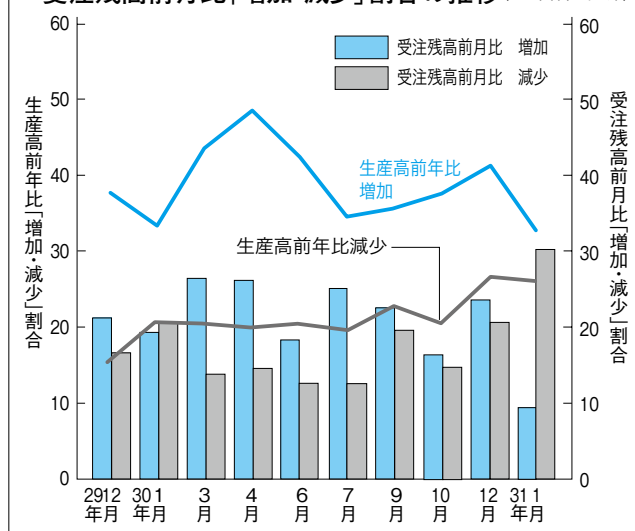
受注残高(1.7ヵ月) → 1.7ヵ月

【受注基調】(前回比) 下降

上昇割合 (24%) → 12%

下降割合 (19%) → 27%

●生産高前年比「増加・減少」割合と受注残高前月比「増加・減少」割合の推移(%)資料:当金庫



企業からのコメント

☆★米中貿易摩擦の影響で9月頃まで落ち込む予想だが、車関係の半導体は良好。10月以降は5G向け等で拡大の見込み。(半導体装置製造)

★休日の増加傾向は製造時間を圧迫し、生産性が低下している。(農産物加工)

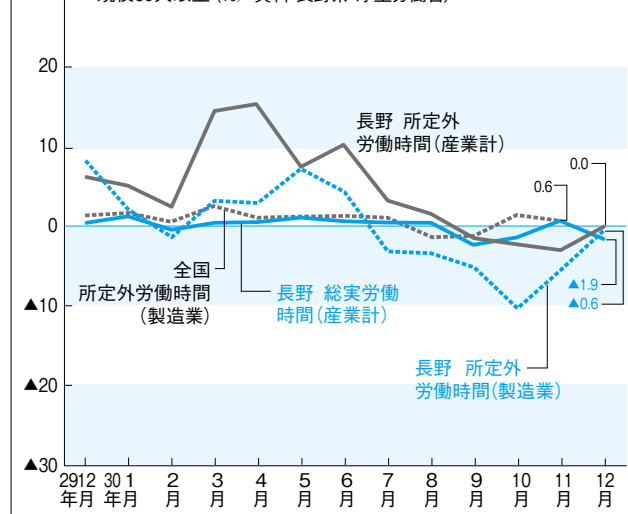
★原材料費の値上げが続き、段ボール等消耗品の値上げも加わり、利益を圧迫している。(通信機器製造)

☆★車載関連は多忙。液晶関連は春から夏に停滞見込み。スマホ関連は引き続き停滞。全体的に4~10月は踊り場状態の景気を予測。(液晶・半導体関連装置)

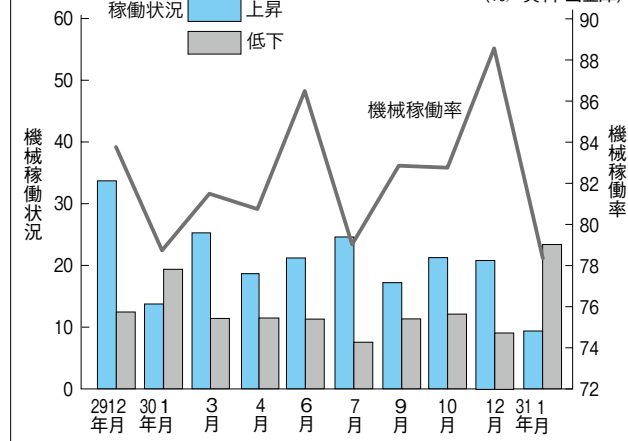
★中国の旧正月の影響もあり、車載以外の電子部品は3月頃まで減少が続くと予想。(電子部品製造)

★冬季は売上減少期だが、社員の体調管理が悪く風邪等で欠勤者も多い。(エアコンプレッサー製造)

●長野県の労働時間の動き(前年同月比)規模30人以上(%)資料:長野県・厚生労働省



●機械稼働率と機械稼働状況前月比「上昇・低下」割合の推移(%)資料:当金庫



建設業

総合建設、土木工事、建築、各種設備

「施工高」「増加」割合は+8割の37%、各種設備は横ばい

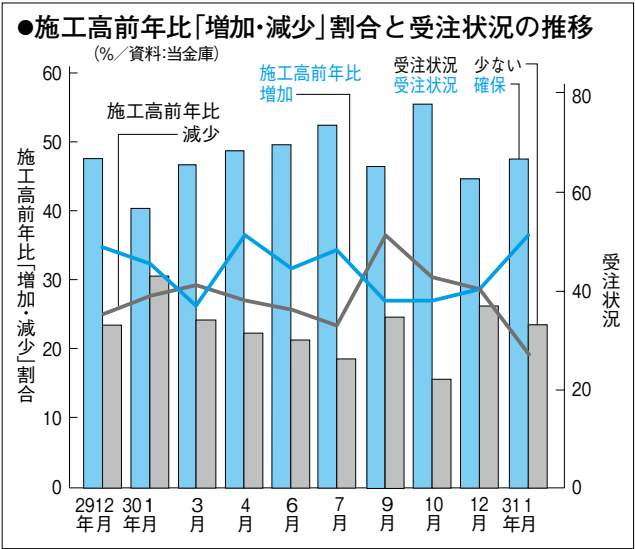
概況

建設業の施工高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(37%)が8割増加、「減少」割合(19%)が10割減少、「不変」割合(45%)が2割増加となり、全体としては増加の状況です。

●施工高前年比「増加・減少」割合(%)

建設業	前回	28.6	42.8	28.6
	今回	増加 36.5	不変 44.5	減少 19.0
総合建設業		27.3	54.5	18.2
土木工事業		25.0	25.0	50.0
建築業		40.9	54.6	4.5
各種設備業		30.0	50.0	20.0

業種別	増加	総合建設・土木工事・建築	
	横ばい	各種設備	
受注状況	受注残高(前回比)	改善	
	「多い・適正」割合	(63%)	→ 67%
	「少ない」割合	(37%)	→ 33%



企業からのコメント

☆☆受注は増加しているのに、とにかく人がいない。

☆来年度の公共工事「防災・減災、国土強靱化対策」予算、前年比30%増の報道に期待。(以上総合建設)

☆☆人手不足等で工期遅延気味。5月の10連休に絡む工事予定を各事業所から収集中。(内装仕上工事)

☆10月の消費税増税に伴う工事依頼が、上田市や軽井沢等で最近多くなってきた。(一般建築)

4～1月の公共工事 (東日本建設業保証取扱分)					
長野県の4～1月の発注合計は、1457.9億円(前年同期比▲15.0%)となりました。前年比プラスは「国」の256.5億円(同0.7%)、「県」の380.7億円(同6.4%)で、マイナスは「市町村」の525.9億円(▲11.5%)、「そのほか」の293.7億円(同▲42.0%)です。					
北信地区市町村の発注合計は191.3億円(同▲15.1%)で、うち長野市は71.2億円(同▲38.1%)でした。					
●建設業保証取扱分から見た長野県と北信地区市町村の公共工事の状況(平成31年1月/30年4月～31年1月累計)					
(単位=百万円/資料: 東日本建設業保証(株))					
長野県	国	1,675	117.0%	25,650	0.7%
	県	2,806	20.2%	38,066	6.4%
	市町村	3,011	▲14.8%	52,588	▲11.5%
	そのほか	171	▲75.8%	29,370	▲42.0%
	合 計	7,663	4.3%	145,787	▲15.0%
北信地区	市町村	1,430	8.6%	19,130	▲15.1%
	(内長野市)	1,079	65.1%	7,116	▲38.1%

4～1月の新設住宅着工戸数					
長野県の4～1月の新設住宅着工戸数は10,638戸(前年同月比+3.5%)でした。持家が6,049戸(同+4.1%)、貸家が3,096戸(同▲0.2%)、分譲が1,423戸(同+6.5%)、給与が70戸(同+159.3%)です。					
北信地区の4～1月の新設住宅着工戸数は2,990戸(同+2.0%)でした。持家が1,611戸(同▲1.8%)、貸家が801戸(同▲14.1%)、分譲が522戸(同+48.3%)、給与が56戸(同+1,020.0%)です。					
●北信地区と長野県の新設住宅着工戸数(平成31年1月/30年4月～31年1月累計) (資料:長野県)					
北信地区		持 家	貸 家	分 譲	給 与
	1月	96戸	45戸	31戸	0戸
	(内長野市)	60戸	32戸	19戸	0戸
	前年同月比	▲15.0%	▲44.4%	82.4%	▲100.0%
	(内長野市)	▲11.8%	▲30.4%	137.5%	—
	4～1月	1,611戸	801戸	522戸	56戸
長野県	前年同期比	▲1.8%	▲14.1%	48.3%	1,020.0%
	1月	433戸	170戸	110戸	0戸
	前年同月比	8.3%	▲49.1%	52.8%	▲100.0%
	4～1月	6,049戸	3,096戸	1,423戸	70戸
	前年同期比	4.1%	▲0.2%	6.5%	159.3%

卸小売業

卸売業、小売業

「売上高」卸売は増加したが、全体は横ばい

卸小売業の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(15%)が2割減少、「減少」割合(33%)が2割減少、「不変」割合(52%)が4割増加し、全体として売上は横ばいの状況です。

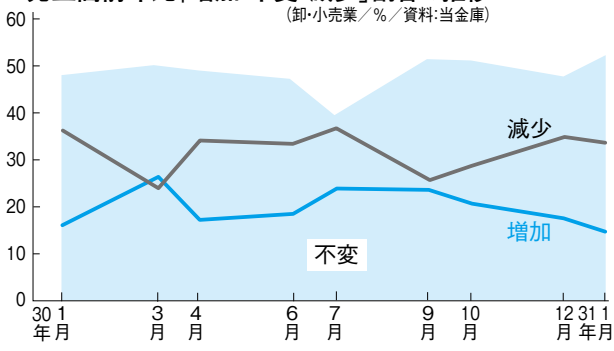
●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

卸小売業	前回	17.4	47.8	34.8
	今回	増加 14.6	不変 52.1	減少 33.3

卸 売 業	20.0	55.0	25.0
-------	------	------	------

小 売 業	10.7	50.0	39.3
-------	------	------	------

●売上高前年比「増加・不変・減少」割合の推移 (卸・小売業/％/資料:当金庫)



【業 種 別】 増加…卸売業 減少…小売業

1月の消費者物価指数(長野市) 平成27年基準=100

◇総合指数(確報値)……102.2(28カ月連続のプラス)
(前月比+0.2%、前年同月比+0.6%)

上昇…「食料」「光熱・水道」「諸雑費」

下落…「被服及び履物」「教養娯楽」「家具・家事用品」「住居」

◇生鮮食品を除く総合指数…101.9(25カ月連続のプラス)
(前月比▲0.1%、前年同月比+1.2%)

企業からのコメント

- ★☆ハイブリッド車や低燃費車増でガソリン販売低迷。
車両のメンテナンスで稼ぎたい。(燃料卸・小売)
- ☆★生花販売で自宅鑑賞用の需要に変化はないが、贈答用は明らかに減少している。(園芸品卸売)
- ★4K・8K放送が開始されても消費者の反応は鈍く、テレビの売上に変化はない。(家電小売)
- ★暖冬傾向で野菜の価格が下がっており、自ずと顧客買上げ単価も下がっている。(生鮮食料品スーパー)
- ☆今冬はインフルエンザの流行で、例年より忙しい。
(薬局・調剤)

サービス業

サービス、輸送、外食、観光、不動産

「売上高」外食は増加、サービス・輸送は減少

サービス業 売上高前年比「増加」割合は21割減少の50%、「減少」割合は17割増加の17%、「不変」割合は5割増加の33%と、売上は減少しています。

輸送業 売上高前年比「増加」割合は15割減少の22%、「減少」割合は21割増加の33%、「不変」割合は6割減少の45%と、売上は減少の状況です。タクシー・運送ともに減少しています。

外食業 売上高前年比「増加」割合は16割増加の27%、「減少」割合は22割減少の0%、「不変」割合は6割増加の73%と、売上は増加しています。

観光(旅館)業 入込数は平均で前月比8割の増加、前年同月比は17割減少で、宿泊利用は伸び悩んでいます。

不動産業 需給状況は前回に比べ、「双方手控え・どちらも低調」は5割増加の55%、「引合いやや増加」は4割減少の36%でした。

企業からのコメント

- ★他業種への転職増加で、ドライバーの確保が困難。
- ★例年に比べ降雪量少なく需要が低迷。(以上タクシー)
- ☆★受注の問い合わせは増加しているが、人手不足で機会を喪失。残念である。(警備業)
- ★人手不足でアルバイトの時給単価が上昇傾向。人件費の増加が大きい。(ファーストフード)
- ★☆業種柄、停滞業となっていることから、アンテナを高くして、業況把握に努めていきたい。(旅館業)

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

サービス業	前回	71.4	28.6	0.0
	今回	増加 50.0	不変 33.3	減少 16.7
輸送業	前回	37.5	50.0	12.5
	今回	22.2	44.5	33.3
うちタクシー業	50.0	0.0	50.0	
うち運送業	14.3	57.1	28.6	
外食業	前回	11.1	66.7	22.2
	今回	27.3	72.7	0.0

業界の市場の将来性

「拡大する」3% 「縮小する」45%

重点的な経営課題

「人材の確保・育成」「事業の販路・市場拡大」
「新収益源の確立」

アンケート

31年の経営見通し ③

30年12月調査

業界の市場の将来性

「拡大する」は前年同様の3%、「縮小する」は+9割の45%、「横ばい」は▲4割の40%となりました。

重点的な経営課題

「人材の確保・育成」「事業の販路・市場拡大」「新しい収益源の確立」の上位3つは昨年と同じです。

業界の市場の将来性

「横ばい」30人以上46%

「業界の市場の将来性をどのように認識しているか」を聞きました。

前年比▲4割の40%の企業は「市場規模は横ばいで進む」と答えていますが、「拡大する」は前年同様の3%、「縮小する」は+9割の45%と、市場は悪化するとの予測です。

従業員規模で見ると、30人以上は「拡大」が1割、「横ばい」が8割、30人未満より高く、30人未満は「縮小」が3割、30人以上より高くなりました。

業種別

「拡大」製造5% 「縮小」建設52%

「横ばい」製造48%

製造業

前年比「拡大」が▲3割の5%、「横ばい」が+10割の48%、「縮小」が+1割の34%となりました。「拡大」と「横ばい」は他業種に比べ最も高く、「縮小」(34%)は他業種に比べ最も低くなっています。

建設業

前年比「拡大」が▲2割の0%、「横ばい」が▲11割の40%、「縮小」は+16割の52%となり、サービス業に次いで悪化しました。「拡大」は他業種に比べ最も低く、「縮小」は他業種に比べ最も高くなっています。

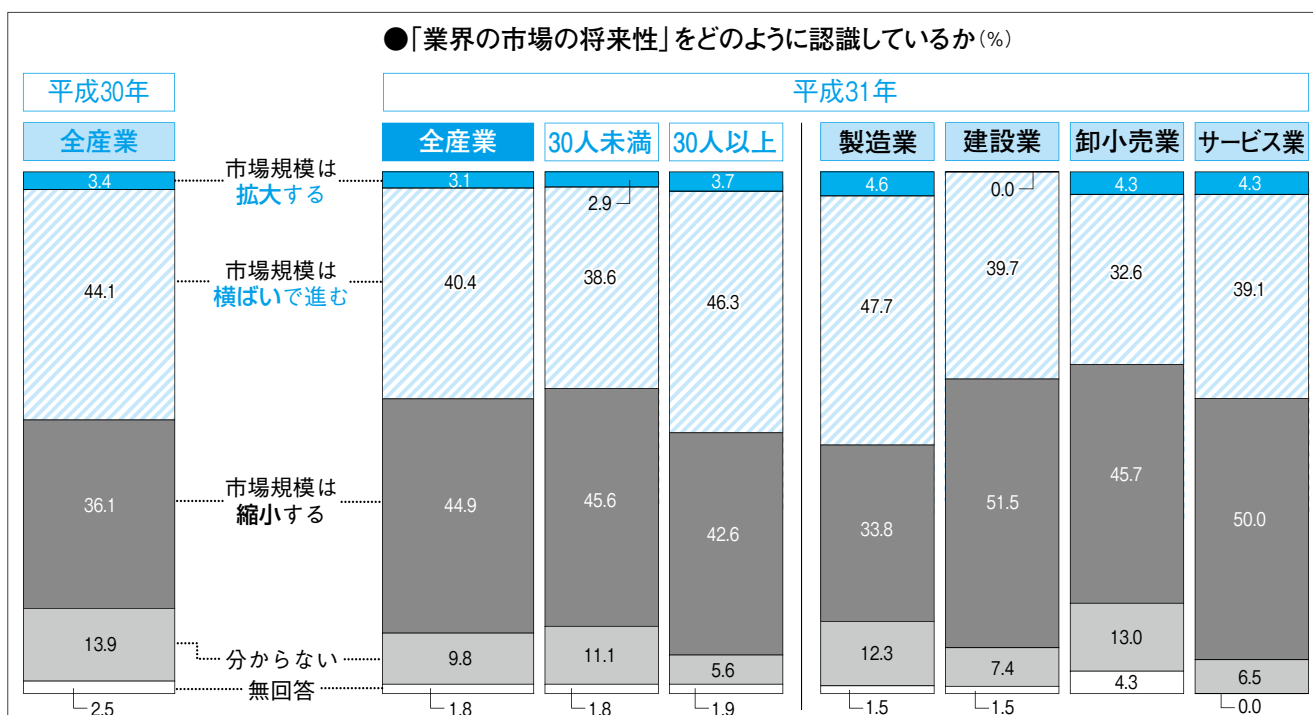
卸小売業

前年比「拡大」が+4割の4%、「横ばい」も+6割の33%、「縮小」は▲5割の46%となり、4業種で最も改善しました。「横ばい」は他業種に比べ最も低くなっています。

サービス業

前年比「拡大」が+2割の4%、「横ばい」が▲22割の39%、「縮小」は+23割の50%となり、4業種で最も悪化の予想となっています。

◇4業種(前年比・全産業比)



重点的な経営課題

「人材の確保・育成」54%

「事業の販路・市場拡大」35%

「新収益源の確立」31%

「今後、重点的に取り組みたい経営課題は何か」を聞きました。

前年に比べ、上位の「人材の確保・育成」(54%)は+5ポイント、「既存事業の販路・市場拡大」(35%)は横ばい、「新しい収益源の確立」(31%)が+2ポイントとなりました。「経費削減による収益力強化」(29%)は+3ポイント、「既存製品・サービスの高付加価値化」(24%)は▲2ポイントとなりました。

従業員規模で見ると、30人以上では「人材の確保・育成」(69%)が19ポイント、「設備投資(老朽設備の更新)」(32%)が17ポイント、「製品・サービスの高付加価値化」(32%)が10ポイント、30人未満より上回っています。30人未満では「新収益源の確立」(34%)が12ポイント、「資金調達・資金繰り改善」(13%)が11ポイント、30人以上より上回っています。

業種別

「人材の確保・育成」建設72%

「事業の販路・市場拡大」卸小売46%

「新収益源の確立」サービス37%

「経費削減による収益力強化」建設40%

製造業 前年比「製品・サービスの高付加価値化」(29%)が8ポイント高くなりました。「製品・サービスの高付加価値化」「新事業分野への参入」「設備投資(生産拡大や新分野進出)」「不採算事業の立て直し・撤退」が他業種に比べ最も高く、「事業の販路・市場拡大」「経費削減による収益力強化」「資金調達・資金繰り改善」「人件費抑制・過剰雇用対策」は他業種に比べ最も低くなっています。

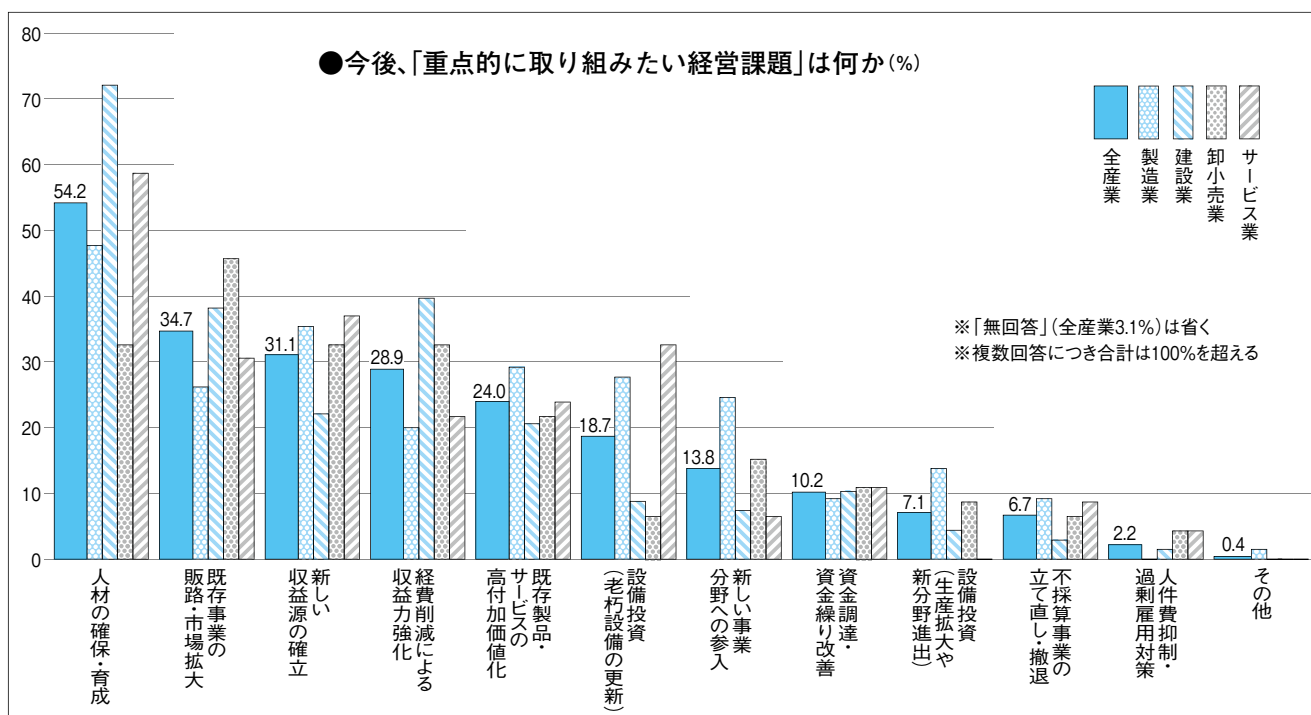
建設業 前年比「人材の確保・育成」(72%)が15ポイント高くなりました。「人材の確保・育成」「経費削減による収益力強化」が他業種に比べ最も高く、「新収益源の確立」「製品・サービスの高付加価値化」「不採算事業の立て直し・撤退」は他業種に比べ最も低くなっています。

卸小売業 前年比「製品・サービスの高付加価値化」(22%)が9ポイント低くなりました。「事業の販路・市場拡大」「資金調達・資金繰り改善」「人件費抑制・過剰雇用対策」が他業種に比べ最も高く、「人材の確保・育成」「設備投資(老朽設備の更新)」は他業種に比べ最も低くなっています。

サービス業 前年比「事業の販路・市場拡大」(30%)が9ポイント高く、「資金調達・資金繰り改善」(11%)が9ポイント低くなりました。「新収益源の確立」「設備投資(老朽設備の更新)」「資金調達・資金繰り改善」「人件費抑制・過剰雇用対策」が他業種に比べ最も高く、「新事業分野への参入」「設備投資(生産拡大や新分野進出)」は他業種に比べ最も低くなっています。

◇次号は「外国人労働者雇用」を予定

◇4業種(前年比・全産業比)





目指すものは生徒に寄り添う コーチングのスタンス

株式会社 オブリガードス

【個別指導塾 まつがく】

代表取締役社長 林部一成さま

●設立の経緯と社名について…

(株)オブリガードスは長野をはじめ新潟、埼玉、富山で個別指導塾“まつがく”を運営している会社です。“オブリガード”はポルトガル語で“ありがとう”の意味。また、音楽用語で独奏や独唱部を引立てるために主旋律と相競うように演奏する助奏の二つの意味を込めました。生徒が主役(主旋律)そして我々がフォローする助奏ということです。

さて、塾の前身である「松本学習指導センター」は1996年に松本で誕生しました。当初は公民館を借りて教室にし、まるで個別指導型の寺子屋という感じのスタートでした。個別指導という指導方法が好評を博し、生徒数も順調に伸び、長野市、上田市へも進出、ここに至り塾の名称を生徒が愛称で呼んでいた“まつがく”に変更しました。

今年で開校してから23年目となりますが、最近では“まつがく”へ通った生徒が成人して講師として入社する時代となり感慨深いものがあります。

●個別指導で大切なことは…

当塾の特色は個別指導にあります。“個別で指導する”ということは、生徒一人一人の個性に合わせて、“寄り添って”指導するということです。実際に宿題の出し方一つとっても、毎日の日割りで出すほうが安心する生徒さんもしれば、やるべき内容の全体を示し、あとは自主性に任せるほうがやる気が出る生徒さんもいます。どのような指導法を選択するかに明確な答えはなく、生徒の微妙な反応を見逃さないように会話しながら、その生徒さんに見合った指導法を見つけていくようにしています。

●求める講師像、研修について…

一言で言うと生徒さんに“寄り添える”講師ということです。当塾では「楽しい教室」を作ることが講師の一番の仕事と言っていますが、これは講師がギャグで笑わせるということではありません。生徒さんが居心地良く、自分の居場所として好む環境作りが重要ということです。設備面も大切かもしれませんが、それよりも大事なのは講師が作る雰囲気です。講師も生徒も送迎をする保護者の方も自然と笑顔になるような雰囲気を理想の教室として求めています。そのためには担当講師が生徒さんの個性を理解し尊重する、生徒さんからすると「あの先生は私のことを良く分かってくれている」という風になるのがまず一番に大切だと考えています。

講師の研修については全体研修・個別研修を実施しています。内容は生徒さんに“寄り添う”こと、そのために講師自身の個性を伸ばすことがほとんどです。もちろん教え方も大事ですが、教え方に関しては決まったもの、これをやれば間違いないというのはないと考えています。むしろ研修会では講師同士が、自分の実際の体験をいかに共有していくかがカギと考え、その機会を大切にしています。

●講師の発掘方法や人材確保は…

良い人材を採りたいのは山々ですが、昨今は人手不足で有効求人倍率が高く、簡単ではありません。しかし塾は“人が全て”というのは間違いなことですし、人がいなければ塾の運営はできません。良い人材集めと育成は当社でも最重要業務と位置付けています。

生徒さんに寄り添うことが、何の研修をしなくても最初からできるような優秀な人材が欲しいことは確かです。しかしそれを期待するのは実際的ではありません。まず健全な人を採用し、その人の個性を伸ばす仕方でも優秀な人材へと育成する。これを当社では心がけています。

入社後の社員の定着率は悪くはないと思います。いま社員は40人弱いますが、塾の経験者は少なく、当社が初めてという人が多いです。私とし

でも、これまで塾の講師を経験したことがない人の方がいいと思っています。

●ティーチングではなくコーチング…

当塾は、指導塾であり進学塾ではありません。勉強が得意な生徒さんばかりではないので、励ますことが大事になります。生徒さんのいいところを引き出せることが講師の力量として一番重要であり、そんなことから塾経験者より、営業職等の経験者でコミュニケーション能力に長けた人のほうがよいと思います。「まつがく」に来て成績が上がるというのは、もちろん大変うれしいことです。勉強はあくまでも手段なので、勉強を通じて生徒さんが“これから”のことについて自信を持つことが出来る。これがベストです。

以前は講師の役割はティーチングでしたが、今はコーチングに移行してきていて、講師の力量は勉強の教え方ではありません。上手に勉強を教えることは、iPadなどの電子機器がやってくれる時代になっているからです。しかし生徒を勇気づけたり励ましたりという場面においては、生身の人間の方がAIよりも得意分野であり、それによって生徒の持っているポテンシャルを引き出していく、そこが当塾の存在意義と考えています。

●生徒さんに人気のある講師とは…

人気のある講師にも様々なタイプがあります。明るく冗談を言いながら、場を盛り上げたりして生徒のやる気を引き出すタイプもいますし、やさしく微笑んで生徒が安心して勉強できる雰囲気を

作るタイプの先生もいます。こういったタイプの先生が一番いいというのはありません。ただ人気を保ち続ける講師に共通しているのは、自分の個性を生き生きと発揮しながら、「生徒ひとりひとりに寄り添い、よく理解して個性を尊重する」ことができる講師です。

そういう人気のある講師を増やすためには、まず会社が講師たちひとりひとりの個性を理解し、尊重するようにしなければならないと考えています。講師が自分の力を存分に発揮するためです。今は宣伝や広告だけでは、通用しない時代です。口コミや紹介が最も信頼できる情報となり、そこに頼って塾を選ぶ方がほとんどです。

中身が一番大事ですが、中身＝講師の質ですので、この点に関しては会社として気を引き締めてやらねばと考えています。

●今後の方針や展望について…

地元の皆さんに支えられてやってきましたので、社名の“オブリガード”の通り、感謝の気持ちを忘れずにやっていきたいと考えています。現在49教室ある、1教室1教室、来てくださっている生徒さんが「ああ、この教室楽しいな」とか、「居心地いいな」と思ってもらえるように、いまの教室の精度を高める、まずはそこを重要課題としていきたいと思っています。また、生徒さんと同様に、先生たちもそれぞれの個性があるので、あまり枠にはめないように、その先生の良さが生かされ、生徒の指導に関しても独自性を発揮するような講師を育ていくことが肝要と考えています。



授業風景

●事業の概要

設立 2016(平成28)年
資本金 300万円
代表 林部一成
従業員 182名(男118名・女64名) アルバイトを含む
業務 小中高生を対象とした学習塾の運営
事業所 長野市三輪5-45-14
URL <https://www.matsugaku.co.jp/company/>

●沿革

1996(平成8)年 松本学習指導センター開講
2016(平成28)年 まつがくの塾運営部門が(株)オブリガードスとして法人設立
2017(平成29)年 まつがく49教室の事業を譲渡により取得

北信濃 江戸時代の風景

(55) 屋代宿本陣

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



本年度は、文政10年(1827)に出版された広告集、『諸国道中商人鑑』(善光寺之部)の絵を紹介しています。前回^{あきゅうど}は屋代宿でしたが、今回は屋代宿本陣です。屋代は江戸時代は矢代と書くのが普通でしたが、ここでは屋代と表記しています。

本陣と問屋を兼ねた柿崎家

屋代宿は本町^{あらまち}と新町の2区から成っていましたが、本陣は新町の柿崎源左衛門家が務め、問屋を兼ねていました。南側には脇本陣の柿崎善兵衛家があり、両家の間には街道があり、松代方面に通じていました。

柿崎家の先祖は、越後米山城主で上杉謙信の武将として活躍した柿崎景家で、その次男景晴が信濃に来て屋代に定住したと伝えられています。源左衛門家は当初は本陣・問屋・肝煎^{きりいり}(名主・庄屋)の3役を兼ねていましたが、貞享3年(1686)からは村役人の肝煎は他家に任せ、宿場の役だけに専

念するようになりました。

絵を読む

下は千曲市屋代の、高見町交差点から200メートルほど北の東側にあった、屋代宿本陣の柿崎源左衛門家の図です。入口に冠木門^{かぶき}があり、奥に唐破風の立派な玄関があります。堀に囲まれたこの部分が本陣で、問屋は右側に別になっているようです。

文久3年(1863)の図によれば、本陣の敷地は1022坪で、間取りは18畳1間、15畳1間、12畳3間、10畳5間、9畳2間、8畳5間、7畳1間、6畳3間、5畳1間、4畳2間、3畳1間という大建築でした。

図は大名が到着した場面です。屋代宿は北信濃の各藩のほか、加賀藩、大聖寺藩、富山藩、高田藩などが通りましたが、この図はどの藩か特定できません。



屋代宿本陣柿崎源左衛門の図(『諸国道中商人鑑』より)

柿崎景家の旗印は燕^{かぶ}で、子孫も燕の家紋を用いたといいますが、図右上に描かれた家紋は、燕というよりも大根に見えます。

加賀藩前田家の宿泊

屋代宿本陣に宿泊した大名の中で最も大規模だったのは、言うまでもなく加賀藩前田家です。単に加賀百万石と呼ばれますが、正確には102万5千石あり、日

本一の大大名でした。北信濃の松代藩10万石、飯山藩3万5千石、須坂藩1万石などと比較して、いかに大きな大名であったかが分かります。参勤交代の行列も大規模で、2500人にも及びました。小林一茶はそれを「あと供はかすみ^{ひき}引けり加賀の守^{かみ}」と詠んでいます。

加賀藩の大名行列は、金沢・江戸間の119里を12泊13日で通るのが標準でした。そのため宿泊地や昼食場所は決まっていて、越後の高田(上越市)を出て信濃に入ると、牟礼宿に宿泊し、善光寺で昼食を取り、坂木宿まで行って宿泊しました。ところが悪天候による川止めなどで予定が狂うと、他の宿場に宿泊せざるを得ませんでした。

屋代宿への宿泊もそうした例外的な宿泊でした。元治2年(1865)の記録によれば、総勢2195人が宿内の158軒に分宿しています。

雨降り街道

屋代宿本陣は、松代方面に通じる街道の分岐点になっていました。この街道は、松代宿、川田宿、福島宿(須坂市)を経て千曲川の布野の渡しを渡し、長沼宿、神代宿(豊野)を通して北国街道に出、牟礼宿に通じていました。松代と長沼は武田信玄が城を築いて北信濃を支配する拠点とした場所で、



屋代宿本陣跡に建つ明治天皇御小休所址の碑

この道はそこを通る街道として戦国時代から重視されてきました。長沼には貞享5年(1688)まで長沼藩が置かれていました。

この街道は北国往還松代通りなどと呼ばれますが、通称を雨降り街道といました。大雨が降って千曲川・犀川が増水すると、矢代の渡しや丹波島の渡しが渡れなくなるので、江戸方面から来た旅人は屋代宿の本陣脇から松代・長沼を通る街道に入りました。この道は布野の渡しで千曲川を渡りますが、多少増水していても渡ることができたということです。この街道は雨降りの時に通ることから「雨降り街道」と呼ばれたのです。

明治天皇御小休所址

現在の屋代宿本陣跡には、「明治天皇御小休所址」の碑が建っています。これは明治11年(1878)9月8日、明治天皇が北陸・東海道地方巡幸の途中、屋代宿旧本陣で小休止された記念碑です。この日、上田で宿泊された明治天皇は、戸倉で昼食を召し上がり、午後この地に立ち寄られたのです。大名の駕籠とは違って、天皇は馬車で移動されていました。この日の宿泊は、善光寺大勧進でした。

4月号は「丹波島の渡し」の予定です。

長野しんきん



第16回

ビジネスフェア2019

ビジネスマッチングで地域の未来を拓く

入場
無料

日時 2019年5月15日[水]
10:00(開場9:30)～17:30

会場 ビッグハット 長野市若里3-22-2
長野市若里多目的スポーツアリーナ

[主催]長野信用金庫 [共催]長野県信用金庫協会、長野県中小企業家同友会
[協賛]長野しんきんビジネススクラブ、長野信用金庫経営者協議会

写真/往生地浄水場：大正4（1915）年竣工。長野市の水道創設事業で建設された市内最古の浄水場であり、後の水道普及に大きく貢献し、建設後100年経った今も稼働しています。2017年に公益社団法人土木学会、選奨土木遺産に指定されました。（長野市往生地）

●みなさまの経営相談のご案内 [4月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日		午 前	午 後	開催日		午 前	午 後
4月 2日	火	若 槻 支 店 (城 北 支 店)	東 長 野 支 店 (柳 原 支 店)	4月 17日	水	長 池 支 店 (大 豆 島 支 店)	
4日	木	稲 荷 山 支 店 (屋 代 支 店)	上 山 田 支 店 (戸 倉 支 店・坂 城 支 店)	19日	金	篠 ノ 井 支 店 (川 柳 支 店)	松 代 支 店 (更 北 支 店)
8日	月	須 坂 支 店 (墨 坂 支 店・太 子 町 支 店)	豊 野 支 店	23日	火	大 門 町 支 店 (桜 枝 町 支 店)	飯 綱 支 店
9日	火	中 野 支 店 (小 布 施 支 店)	山 ノ 内 支 店 (飯 山 支 店)	24日	水	本 店 営 業 部	古 里 支 店 (吉 田 支 店)
11日	木	権 堂 支 店 (善 光 寺 下 支 店)	川 中 島 支 店 (川 中 島 駅 前 支 店)	25日	木	本 部	
16日	火	石 堂 支 店 (伊 勢 宮 支 店)	七 瀬 支 店 (南 支 店)	26日	金	本 部	

●4月の「しんきん事業相談会」は4月3日(水)です



長野信用金庫 総合企画部

本店 〒380-8686 長野市居町 133-1 TEL 026-228-0221(代)

長野信用金庫 URL <http://www.nagano-shinkin.jp/>

●「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます●

